

南 正人（動物の社会行動：共同研究員）・戸張 靖子（小鳥の歌の科学）

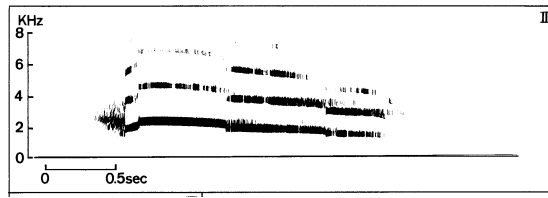
研究の背景

ニホンジカのオスは発情期に2種類の大きな声を出します。1kmほど届く発声場所のわかりやすい澄んだ発情声 (a)は1日に数回しか出しませんが、200mほど届く濁った発情声(b)は1日に100回も出すことがあります。2種類の発情声を持つシカは珍しく、その機能は充分にはわかっていません。ニホンジカの発情声の音響特性や音声が出される状況を分析して、この発情声の機能を考えてみたいと思います。

遠くに向かってaを鳴く



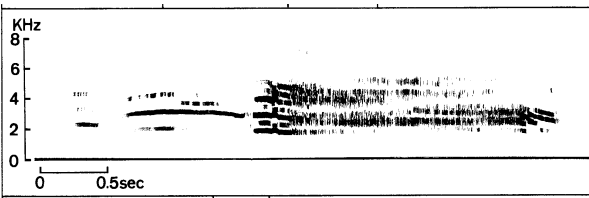
1km届く澄んだ発情声a



メスに向かってbを鳴く



200m届く濁った発情声b

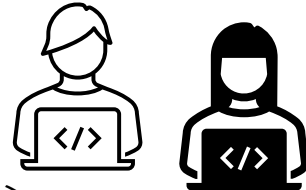


個体差？

個体内変動＝感情？

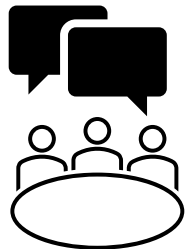
体重の重さを反映？

なぜ2種類？



アプローチ

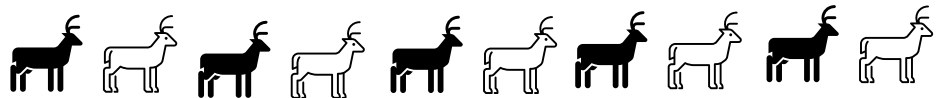
- Step1:**宮城県金華山島に生息するシカの生態を学びます（南担当）
- Step2:**宮城県金華山島の個体識別されたシカの発情声（録音済）をパソコンで分析し、音響特性を示すソナグラフを描きます（戸張担当）
- Step3:**ソナグラフから抽出された音響特性を使って、個体差や個体内の変異を探します。また、その声を出した個体の社会的地位や音声を出した状況の記録と音響特性の関係を調べて、二つの音声の機能を考えます（南・戸張担当）
- Step4:**学会でプロジェクトの成果を発表し、研究者達と議論します



期待される結果

- ・ニホンジカの発情声の個体差がはっきりしているなら、「誰が」という情報が伝っている可能性があります。もしくは、発情声が体の大きさや闘争力を伝えているかもしれません。
- ・本プロジェクトを通して、生物音響学の基本的な知識や音声解析の方法を身に付けることができます。
- ・教員や仲間との議論を積極的に行うことで、論理的な思考方法やプレゼンテーション能力を身に付けることができます。

募集方法



募集人員：3名程度

選考過程：説明会を行いますので、参加希望者は参加してください。
希望者多数の場合は、面接の上で選抜いたします。

問い合わせ：minami@azabu-u.ac.jp（南）

